

【知事定例記者会見】 4月16日

● 「Innovation SAGA—想像力・創造力をもって 新たな時代へ—」

佐賀県は、想像力と創造力をもって新たな時代へ向かって行きたい。宇宙と地下、過去と未来を俯瞰的に見ていきたい。

高輪築堤と大隈重信

今年は、大隈重信の 100 回忌。高輪ゲートウェイ駅の工事で、大隈侯が海上に築堤した日本初の鉄道、高輪築堤がほぼそのままの形で出てきた。人力車の時代に鉄道を敷いた構想力に感服する。

先月、萩生田大臣との面会で、遺構について意見交換をした。その際大臣から、本県の職員も協働をとの話があり、藤井学芸員を派遣し、文化庁の業務に関わっている。

この鉄道は、明治 5 年に開通。その後、佐賀戦争や、佐賀県お取りつぶしの悲運があり、本県は 7 年を経て復県。大隈侯の思いや功績に光を当て、佐賀の誇りを取り戻したい。

宇宙×地方創生 全国初

JAXA とはつながりがある。佐賀県産のミカンが国際宇宙ステーションに 4 回採用された。また、1999 年開館の県立宇宙科学館の館長は JAXA から来ていただいた。

今後、JAXA の衛星データで地方課題を解決する。例えば、災害時の状況分析。農林水産業でも活用もできるそうだ。また、宇宙教育で子どもたちの夢や志をはぐくむ教育プログラムに取り組む。これからの連携し地方創生に生かしていきたい。4 月からは、本県の円城寺職員を JAXA へ派遣することになった。

新しい時代を俯瞰して、佐賀県のこれからの地方創生を作り上げていく。

● 県内企業に就職する高校生が増えています！

本県の 15 歳以下人口比率は全国 3 位。しかし、高校生の県内就職率はワースト 4 位で 60.7%、子どもたちの転出が大きな地域課題である。

県内就職率が 50% 台の頃、5 年前に「プロジェクト 60」を始め、保護者向けの企業説明会や学校に支援員を配置した。地元企業とのマッチングに力を入れ、企業見学会も開催。また、企業

に対して、採用力強化も支援してきた。本県は工業高校が多く、IT企業と高校教員との懇談などにも取り組んだ。

その結果、県内就職率が60.7%になった。「プロジェクト60」を「プロジェクト65」と変え、引き続き取り組み令和2年度は65.4%に。まだ、この数字は、全国的に下位のほう。今後も県内就職率を高める取り組みを進めていきたい。

県外に転出する大きな要因は、県外企業は寮が完備されている。住宅手当や寮を設けた企業に対して、採用者1人に月15,000円を補助する。さらに、通勤圏外の県内企業に就職できるような取り組みをしていく。

次は、「プロジェクト65+」として県内就職率65%以上を定着させたい。

- 「佐賀の介護人財あいプロジェクト」を始動します！

介護現場は人材不足が深刻。2025年には団塊世代が75歳以上になり、本県では、約1,200人の介護人材が不足する見込み。これは、若い世代に介護の仕事をもっと身近に感じてもらうプロジェクト。

介護の仕事は、人の繋がりを感じられる素晴らしい仕事。「ありがとう」がいっぱいの職場だと発信していきたい。

介護福祉士を取得できる嬉野高校、神埼清明高校、北陵高校の3校は、就職率や定着率が大変高い。そこで小中学生に様々なイベントや広報をし、高校の周知をしていく。また、資格取得の実費や実習費などの支援をし、県内で働く介護人を増やしていきたい。

- 衝撃のデビュー！「◎にじゅうまる」旋風駆け抜ける

今年は10戸の農家で、30トンほどの収穫。市場関係者や消費者からは、お褒めの言葉をたくさんいただいた。他のブランドを圧倒するような話題性と存在感をさらに発揮していきたい。

来年は、品質を維持しつつ収穫量を増やし、支持層をつけていきたい。うまくいけば、耕作放棄地や中山間問題打開の糸口が見えてくるだろう。

- あなたの今と未来のために 佐賀県はがん撲滅に本気です！

コロナ禍で受診控えが多く、昨年度の市町のがん検診受診者は23%減少。定期検診は大事、必ず受けてほしい。多くのがんは、早期発見で9割以上は治る。昔と違い、がんは生存できる病

気になった。検診日程は、「がんポータル佐賀」で検索できるので、ぜひ受けてほしい。

本県は、都道府県で唯一ピロリ菌の検査、除菌に取り組んでいる。胃がんの大きな原因はピロリ菌といわれている。保護者の同意書の提出があった中学 3 年生を対象に検査し、除菌治療が必要な場合は、無料で除菌治療をする。子供たちが、将来胃がんになることを抑えられる「未来のプレゼント事業」と位置づけしている。

事業を始めて 5 年経過した。令和 2 年度は、対象生徒の 93%が一次検査を受けた。これは、通常の尿検査と併用。二次検査が必要であれば、佐賀大学から連絡がいく。さらに治療が必要となると服薬治療になる。

課題は、二次検査や除菌治療が必要なのに、未検査、未治療があること。原因を分析し、この数をゼロに近づけていきたい。

県内の新型コロナ変異株は、14 件判明している。早い段階で補足して、検査で囲い込んでいくことができている。どこまでこの方法で対応できるか予断を許さない状況ではあるが、「チーム佐賀、オール佐賀」でコロナ禍に対応していきたい。